

# 親の不在狙つて帰宅

4

第1部 群像

## 沖縄 子どもの貧困

30代の両親と小学生の弟2人の5人暮らし。毎日朝食はなく、夜は母親がスーパーで2品ほど総菜を買ってくるが、1人当たりの量はわずかで、弟たちのことを考えると、カナはおかげで箸を伸ばせない。「両親がそううことが多いから、食事の時間は嫌い」だという。

12月上旬のある日、中学2年生のカナ(14)は、制服の着方や染めた髪を改めてこなかつたことで生徒指導室に呼び出された。「直してこい」と言われて帽されただけで、家には帰りたくない」とふてくされていた。「先生はうるさく注意していくけど、両親は何も言わない」。親は自分に興味がないのだと、カナはそう思っている。

居心地の悪い家庭から逃れる  
ように、小学校高学年どころか  
放課後はまっすぐ家に帰ら  
ず、深夜徘徊(はいがい)するようになつた。  
小遣いは一度ももらつたことが  
ない。欲しいものがあると万引  
するようになつた。中学に進学  
してからの補導回数は10回以上

金銭面での口論が絶えない両親はいつも不仲で、父親はカナに当たつてくる」ともある。「態度が悪い」「お前は親の言うことは聞かないせに金ばかり掛かる」と怒鳴られ、頭をたたかれたことがある。

は思おしくなく、昨年から会社を畳む準備をしている。専業主婦だった母親は、2年前からパ

昨年の夏、アクセサリーを万引して補導された。警察署に両親が呼び出されたが、2人は現れず、迎えに来たのは担任だつた。「先生が来た時はびっくり

家に帰ると、父親は予想通り、警察から連絡があつたことに激怒し「もう帰つてくるな」と千円札を数枚投げつけた。

最近は、親がいない時間を見計らつて帰宅する。鉢合わせしないように台所に行き、パンや飲み物を取つて子ども部屋で食事を済ませている。

A close-up photograph of a person's torso and head from a side-on perspective. The person is wearing a light grey hoodie with a visible zipper pull. They are seated at a wooden table, looking down at a white smartphone held in their right hand. On the screen of the phone, a colorful mobile game interface is visible. To the right of the person's hand, on the table, sits a clear glass containing a dark liquid, possibly soda or beer, with a yellow straw partially submerged. The background is dark and out of focus.

那霸地区少年補導員協議会の田場豊さん(46)によると、貧困などの理由から生活に余裕がなくなつた親が放任や虐待をするケースは多く、そういう家庭の子どもは、注目を集めたい一心で非行に走ることがあるという。「頭」なしに否定していくは、子どもは非行を繰り返すばかりだ」と指摘する。

学校を欠席することも多い力ナは、勉強や進学にも意味を見いだせずにいるという。「今の心配は、親のイライラが弟たちに向いてしまはないか。2人には私みたいな『ヤンキー』になつてほしくない」とぼした。

二人そろそろから食事の時間嫌い

家に帰らずファストフード店で時間をつぶすカナ

(「子どもの貧困」取材班) || 火・木曜日掲載

文  
中  
假  
名

記事に関するご意見、情報を寄せください。

記事に関するご意見、情報をお聞かせください。  
ファックス：098(860)3483 メール：[kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp](mailto:kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp)